

巻頭言

専門性と総合性を兼ね備えた土木家の出番



CNCP 常務理事 皆川 勝（東京都市大学工学部教授）

多くの NPO 法人において中核となって活動する方々には、シニアで、しかもそれぞれの地域に密着して、社会に貢献したいという強い情熱を有する人々が多いと思います。しかも様々な分野で豊富な経験をお持ちです。このような方々はその知見を活かしつつ、市民の目線をつねに重視した施策を実施に移すことができる能力を備えています。

土木学会の初代会長の古市公威は、土木学会設立時の総会で講演し、過度の専門分化により会員が専門性のみ安住して、土木の本来性が失われることを戒め、土木が土木たるゆえんである総合性の重要性を強く当時の土木学会会員に喚起しました。現代でも、技術には分野ごとにその深さを追及するものと、広がりを追及するものがあり、我が国では広がりを追及する学問分野が適正に育ってこなかったという指摘もあります。翻って、我々技術者は、これまで、自らの使命をより深遠な学術の探求におき、それが人類の福利に貢献すると考え、また、土木分野という守備範囲をきちっと守ることを当然と考えてきたように思えます。しかし、3.11 を経て土木技術者の守備範囲はもっともっと広いものであると、多くの土木技術者が再認識したと思います。その中の重要な部分として、より市民の目線に近い貢献があると思います。

さまざまな利害に関わる方々が相応の分担をしつつ、真に地域に必要なサービスに対して NPO がその柔軟性と経験知を発揮できるビジネスモデルが必要です。継続性がない事業の社会貢献は限定的にならざるを得ないからです。成功例に学び、超高齢者社会において、シニアの専門家が中核を担うビジネスモデルが生まれてくることが望まれます。CNCP は、NPO 活動における課題を互いに共有して、知恵を出し合って克服してゆくことを目指して設立されたと考えています。

土木技術者は、いうまでもなく利他の心を強くもつ人々です。そして、他の技術分野に比べて、社会や市民の安寧と福利を最優先して公共的な課題を解決することに使命感をもつ方々です。公共的な課題の中には、弱者の生活を守るために必要であっても、コストが課題となって切り捨てられる例も多くあります。土木技術者は「将の将たるもの」と言われるように、課題を解決するために多様な視点から複眼的に課題を見て解決を図る能力に秀でています。したがって、使命感とその総合的マネジメント能力は、このような課題の解決にはもってこいの人材であり、今後の一層の参入と活躍が期待されているのです。